

愛の星

2022・第2号(通算170号) 2023年3月31日



社会福祉法人 東京聖ビンセンシオ・ア・パウロ会

愛星保育園

〒108-0074 港区高輪1-27-40

TEL. 03-3441-5410

FAX. 03-3441-5436

E-mail aiseihoikuen@fancy.ocn.ne.jp

<http://www.aisei-hoikuen.com>



園の花(すみれ)



コロナとの闘いも3年目を迎え、今年度も健康管理や感染症対策を行いながら、乳児・幼児グループで毎月のテーマを基に話し合いを進め、保育に取り組んできました。

今年の乳児組は、成長発達が早い子、月齢差の大きいクラス、個性豊かな子が多い等、例年以上に一人一人の成長・情緒等をよく見ながら、個を大切に丁寧に関わってきました。

生活が安定してくると心の安定にもつながり遊びが充実してきました。友達がしている遊びと一緒にやりたいという気持ちが強くなり「やってみよう」と挑戦したり、一人ではできないことでも大好きな友達や保育者と一緒に頑張る気持ちにつながることも多く、さらには幼児との交流も増え、一緒に散歩に行ったり、お世話をしてもらうことで年上児との関わりを喜び、嬉しさを感じているようでした。普段は散歩に行く時に手をつなぐことを嫌がる子も年上児となら進んで手をつなぐこともありました。自分がしてもらった経験を次は自分がしてあげたいという気持ちになり、乳児期の年上児との関わりはこれからの優しさや思いやりを育む気持ちにつながっていくと思います。小さな子ども達でも社会の一員としての役割を果たしていることを感じ、特に混合保育の中では様々な人との関わりを持つことがお互いに成長する機会になっていることを感じました。

幼児組では、おやじの会と男性保育士が協力しピタゴラススイッチを制作して全家庭に配信したことがきっかけとなり、子ども達が興味を持ち園内での遊びに発展していきました。自分達で制作方法を考え、うまくいかない時には友達同士でアイデアを出し合い、改善し、試行錯誤しながら諦めず完成に向けて何回も取り組んでいました。将来の夢は「ピタゴラススイッチの研究者」という子どもまで出てきたのは、単に楽しいだけでなく制作する過程を友達と一緒に考え、完成した喜びが達成感につながったからだと思います。また、ピタゴラススイッチを集中してできる空間を整えることでダイナミック且つ継続的に遊びを進めることができ次への意欲にもつながっていきました。まさに“遊びの中のまなび”がたくさんあり、保育者の環境構成の重要性を感じました。

今年度も子ども達が“ワクワク”を探し、継続的に取り組む姿を保護者の方にもお伝えしたいと思い、昨年の反省を踏まえて遊びや成長の過程がわかるように、毎月のクラスだよりや壁面掲示にして子ども達の成長をドキュメンテーションでお伝えしてきました。これからも継続的な内容・方法を工夫し、保護者の方に保育をわかりやすく伝えながら子どもの成長を更に喜び合い、育ち合う機会にしていきたいと思います。

保護者の皆様には園の運営にご協力をいただきまして、ありがとうございました。

副園長 田中 治子



ゆり組（0歳児）



入園当初、新しい場所や人、保護者から離れて過ごすことなど様々な「初めて」に不安を感じて泣いていた子ども達。しかし、音が鳴る玩具の音や歌が聞こえると、心と笑顔を見せる姿があり、この1年「音楽」をテーマに、音楽と共に過ごしてきました。園生活に慣れてくると、保育者が歌う歌やピアノに合わせて体を揺らしたり、マラカスを振る姿が増え、一人がマラカスを振り始めると次第に全員がマラカスを振ってみんなで音楽を楽しむようになりました。同時に太鼓や鈴、ピアノなど様々な楽器へと興味が広がり、秋ごろからは、音楽に合わせて体操をし、体を動かす楽しさを感じたり、幼児組の運動会練習を見て遊戯の音楽に合わせて体を揺らし、年上児への興味関心も深まりました。また、歌を歌うことで発語や言葉の獲得にも繋がっていききました。「音楽」を通して感じた「友だちと一緒に」の楽しさは、楽器あそびだけではなく、その他のあそびや身の回りのことへの意欲、友だちへの関心など様々な方向に広がり、友だちの姿から刺激を受けて、様々なことに“ぼく・わたしもやってみよう”と思う気持ちが育ち、達成感を味わいました。



音楽



友だちと一緒に楽しい
ぼく・わたしもやってみよう





もも組（1歳児）



1歳児は歩行が安定し、様々なことに興味関心が広がる時期。言葉も喃語から単語、二語文、会話と成長していきます。子ども達の毎日が「わくわく」であふれるように、今年度のテーマを『チャレンジ』とし、そのテーマに合わせ、下記の4つのねらいのもと保育をしてきました。

進級児が高月齢児、新入園児は低月齢児が多く月齢の差があった為、初めは活動を分けて個々に合った関わりができるようにすることで、4月に入園をした子どもたちが園の生活に慣れ、5月にはクラスみんなで過ごすことが出来るようになりました。信頼関係のある保育者の見守りの中で、毎日色々なことに挑戦し、「できた!」という達成感を大切にするように心がけ、「今〇〇って言ったね」「自分でお椀を持って飲めるようになったね」「ズボンを自分で履いたね」など子ども達と喜び合いながら、保育者同士で成長を確認し合い、個々に合った「次のチャレンジ」を決めて保育を行ってきました。友だちとの関わりも広がり、時には思いがぶつかりトラブルになることもありましたが、「やだよ」「ごめんね」「ありがとう」と思いを言葉で伝えられるようになり、頭を撫でたり、転んだ友だちの痛みを「パクッ」と食べるふりをしたりと、思いやりの心も大きく成長しました。これからも色々なことに挑戦しながら、「できた!」という経験を重ねていけるよう、見守っていきます。

①

保育者との信頼関係の中で
安心して生活をする



②

安全な環境の中で、簡単な身の回りの
ことを自分で行おうとする



③

保育者に見守られながら身近なことに
興味関心をもち探索活動を十分に楽しむ



チャレンジ

④

生活やあそびの中で経験したことや自分の
思いや要求を表現し、人との関わりを楽しむ





つくし組 (2 歳児)



自分のイメージを大きく膨らませて遊ぶことが大好きなつくし組の子ども達。今年度は一人ひとりの発達のペースを大切にしながらも、みんなで一緒に「たのしいね!」「おもしろいね!もっとやりたい!」という体験がたくさんできるように関わってきました。季節の移り変わりとともに自然の恵みを体いっぱい、五感で感じながら遊ぶ事を大切に過ごすことができたと感じています。子ども達は様々な経験をしながら、自分で出来る事が増えていく事を喜び、その喜びを保育者やお家の方にも伝える姿が見られるようになっていきました。自然と向き合い遊ぶ事で子ども達が自分の力で挑戦する姿も見られるようになり身体的にも成長が見られました。自己主張との葛藤の中での成長期でもあり、保育者に思いをたくさん出す事でありのままの姿を受け止められて、心も大きく成長してきました。自分の事だけでなく、時には泣いているお友だちの姿を気に掛けるようになり「どうしたの?」「～がよかったの?」と関わろうとすることもあります。みんなで一緒に感じることを重ねてきた1年間。これからも子どもも大人も一緒に“楽しい!”を味わいながら成長していきたいです。



春

風を感じる
雨を聴く



夏

夏野菜の栽培



水・氷・片栗粉あそび

ボディペインティング...



青虫が蝶になるまでの観察
イースターのたまご探し
新聞あそび...



五感を使って感じ、遊び、
季節の変化を楽しみながら
心身ともに健康に生活する。

自己主張や葛藤
をしながらも、自分の
思いを受け止められる経験を
通して自立の芽生えが育つ。

つくし組保育目標

一人一人が安心して
園生活を送り、十分に
自己発揮ができるようにする。

保育者に見守られながら
安心して過ごし、友達との
関わり合いを楽しむ。

身の回りのことに関心を持ち、
自分でしようとする。



秋

落ち葉・木の実探し
葉っぱのおばけごっこ
運動会ごっこ

プリンセス・おしゃれごっこ

ハロウィンのお菓子探し...



冬

オオカミごっこ
お家ごっこや病院ごっこ
赤ちゃんイエス様のお誕生お祝い
冬の自然物に触れる
氷をつくる
お正月遊び...





たんぽぽ組（3歳児）



周りに目が向くようになる3歳児。友だちや大人がしていることに興味がより増してきました。今まではあまり気にならなかったことにも「なんで？」「どうして？」と考えようとする姿に成長を感じ始めた頃、保育者も子ども達と関わる際、「どうしてだと思う？」「なんでそれを選んだの？」と考えや思っていることを引き出す言葉掛けを心掛けるようにしました。

“自分の伝えたいことを言葉にでき、相手の話が理解できると話す事が楽しいね！”保育者と子ども達のやりとりに“楽しい！”を感じる毎日でした。

時には友だちと一緒に過ごす事が楽しすぎて羽目をはずして保育者から注意を受けることも…でも友だちと同じことをする楽しさが感じられるようになったことに成長を感じました。



自分でできることを毎日繰り返すと出来るが増えて楽しいね！

全身を使って体操や遊ぶことで今までより色々な動きができるようになりました。



友達に「一緒に遊ぼう」と声を掛けたり、言葉でのやりとりをしながら、笑い合って楽しく遊びました。



年上の友達にお話をしてもらった経験が年下との関わりに繋がりました！「お世話するのって大変だけど楽しいね！」と子ども達からの声でした！



4月当初は幼児3クラスで過ごすことに戸惑い、保育者の後ろに隠れるようにして年上児の姿を見ていた子ども達が、今では自分から年上児の側に行き、一緒にカードゲームやブロック、追いかっこを楽しむようになりました。また、この1年で思いを言葉にして相手に伝えられるようになったり、過去や未来のことを話す姿は家庭や身近な人との楽しいやりとりと様々な経験から習得したことを感じます。安心できる場所があるとのびのび成長する子ども達がこれからも年齢に合った成長が出来るように、ご両親・友だち・そして神様と共に保育者も見守り、その時にあった関わりをしたいと思います。





すみれ組（4歳児）



友達と一緒に活動する時に力を発揮する子が多く、グループやクラス全体で製作できるように計画してきました。また、一年を通して取り入れてきたテーマ『宇宙』も子ども達の想像力から出てきたアイディアを基に『すみれロケット』や『すみれ星』などをクラスで製作しました。どの製作でも保育者が助言することもあります。子どもたち同士での話し合いを大事にしながら、どんな色にするか、何を使って作るかなどを決め、お互いに意見を伝え合いながら折り合いをつけたり工夫をして一つのものを作り上げられるようにしてきました。その中で、相手に分かるように伝えたり友だちの意見を聞く事、相手にも思いがあり自分とは違う時にどのようにしたら良いかを考える事、自分の得意な事を教えたり苦手な事を手伝ってもらおう事などを経験し、一人ひとり個性豊かなすみれ組が“力を合わせて一つの目的に向かう”という事を学んできました。

初めは保育者が助言をしながらお互いに意見を言ったり、相手の話を聞いたりできるようにしてきました。



グループからクラス全体に人数が増えると、様々な思いが出てきてまとまらなくなる時もありましたが、そのような経験を繰り返す中で、どうしたらみんなが納得した結果に繋がるかを考える時間にもなりました。



なかなか手を上げられなかった子も自分の意見を伝えようとする姿が見られるようになり、周りの友だちが「〇〇ちゃんが何か言ってるよ」と声を掛けていました。



一人一人の経験が増えてくると意見の内容も変わり、「これを使った方が強くなるよ」「これには絵の具は塗れないから…」と経験から学んだ事を活かしながら考えを出し合う姿もありました。



友だちと一緒に過ごす時には、約束があります。「なんで約束がある？」ということも丁寧に伝えてきました。



クラスでの行事や活動の経験が日常の中での人との関わりにも繋がり、いろいろなことを考えて答えを出すということが、年長児になって優しいお兄さん、お姉さんとしての力となることを期待しています。最後の一年、一人一人が自分の力を発揮してきらきらと輝く毎日になるよう、見守っていきます。



ひまわり組（5歳児）

昨年度は日本をテーマにしてきたので、今年度は世界のことを保育に取り入れました。例えば保育者が体を触れ合わせたダンス“ジェンガ”を取り入れ、その後子ども達にも「おうちの人と調べてみよう」と家庭でも世界のことを知る機会になるように声を掛けると、ある子がドッチボールの要素を取り入れた外国のボール遊び“クウェペナ”という遊びがあることを皆に知らせ、戸外遊びで実際に行いました。また、7月に行った“わくわくデー”では、ドイツの童話『おおどろぼうホッツェンブロッツ』を取り入れて、友達と協力してホッツェンブロッツからの謎解きに挑戦しました。絵本を読み進めていくと鼻の大きさや目の色など、外国の人は自分達とは違うということに興味を持っていたので一人一人違って良いこと、見た目で人を判断しないことを伝えと子ども達は散歩中にすれ違った外国の人などに対しても親しみをもち、挨拶をするようにもなりました。2月にはクリスマス献金を年長児が代表でユニセフに届けに行った際、世界には食糧・ワクチン不足や戦争被害などで困っている人達が大量にいる事を知り、自分達にできることは無いか一人一人考え、クラスで話し合いました。子ども達からは「食べ物を無駄にしない」「困っている人のために祈りをする」などの話が上がり、誰かが水道の水を止め忘れていないことに気づいたら水を止めたり、まだ描ける部分があるのに捨てられた紙をみて「もったいない」という声が聞かれたり、食器に食べ残しがないように綺麗に食事をする事を意識するようになりました。

世界のことに目を向けたことで、自分達との生活や文化の違いを知ったり、遊びに取り入れる事の楽しさや何より自分達が何不自由なく生活する事が出来ていることが幸せな事であると感じる事が出来ました。

この2年間で日本・世界のことを学び、経験して感じたことを活かし、今後は子ども達自身が「みんな違っていいよね」を周りの人に伝え、日々過ごせることに感謝の気持ちを持って大きく成長して欲しいと思います。

【わくわくデー】



フィンランドのダンス“ジェンガ”



絵本に出てきた食事をおやつや夕食に再現してもらいました！

【ユニセフ訪問】



ウガンダ共和国のボール遊び“クウェペナ”



同じ年齢の子が遊ばず、甕を頭にのせ数十km離れたところまで往復していることを知り、実際に甕を持ち上げさせてもらいました。



昨年のワールドカップ開催以降、サッカーが流行っています。

